

会 議 録

1 会議名

平成 26 年度 第 3 回 社会教育委員・公民館運営審議会

2 議題(公開・非公開の別)

- (1) 上越市の社会教育事業の在り方について (公開)
- (2) 平成 27 年新潟県社会教育研究大会について (非公開)
- (3) その他 (公開)

3 開催日時

平成 26 年 11 月 26 日 (水) 午後 4 時 30 分から午後 5 時 50 分まで

4 開催場所

上越市教育プラザ 大会議室

5 傍聴人の数

0 人

6 非公開の理由

県主催事業の内容を協議するため(上越市審議会等の会議の公開に関する条例第 7 条第 4 号に該当)

7 出席した者 (傍聴人を除く。) 氏名 (敬称略)

- ・ 委 員：秋山委員長、田中副委員長、竹内委員、小林委員、秋山 (美) 委員、大越委員、土屋委員、石井委員、樋口委員、秋山 (正) 委員、上原委員
- ・ 事務局：笹川課長、内山館長、佐藤参事、梨本参事、小嶋副館長、吉田係長、牛木係長、武内係長、山本主任、北山主任、大坪主事

8 発言の内容

《開会》

笹川課長挨拶

秋山委員長挨拶

《議題》

上越市の社会教育事業の在り方について

— 資料1に基づき、事務局説明 —

秋山委員長：事務局から説明があったが、意見交換に参加された方から、こういったところに視点を置いた、というようなことがあればお話しいただきたい。

土屋委員：説明いただいたとおりだと思う。今さらながら、カテゴリーの部分で成人と一般を分ける必要があるのか。青少年と一般の2種類でよいのではないか。

事務局：主にメインターゲットとする事業を青少年、成人、高齢者、一般と分けている。一般の中には、生涯学習フェスティバルなど全年齢を対象とした事業や複数のカテゴリーに当てはまるような事業を「一般」という書き方で明記させていただいている。

大越委員：9月に行われた会議のワークショップで、生涯学習と社会教育の違いは何か、という話があり、社会教育というのは、行政が学んでほしいことを提供するものをいうのではないかと、という意見が私のグループで出された。これを聞いて、なるほどと思った。生涯学習の観点から見れば、学びたい時に学ぶ場所があるというのが1つの在り方だと思うが、かといって、やりたいことばかりあるのがいいというわけでもない。そこを上手にプランの中に入れていくのが、上越市の社会教育の方針にあってもいいのではないかと感じ、それを上手く入れていただいた。そして、テーマ学習のところで、行政がやるべき内容を入れてもらえればよいと思う。曖昧だったところがクリアになってきた。これをやってみて、反省し、次に活かしていく、それこそが循環だと思う。最初から100点満点の答案はない。まずはやってみましょう、

と思う。

田中副委員長：前回に比べて、まとまっていると思った。ただ、やはり気になるのは、上越市の総合教育プラン基本目標があるのに、そこから細分化して3つの指標となるような言葉が2回続けて出てくることだ。2つの違いがよく分からない。基本目標から、すんなりと3つの内容に入れるようなプロセスがあるとよいと思った。それから、3つの項目の中に、人材が地域を支える、とあるが、地域が支えられた状態というのは、どういう状態なのか。具体的ではないと思った。最後に、市民の学びの輪の絵の下に「地域を支える人材の誕生」と輝かしく書いてあるが、何をもって支える人材が誕生したと言えるのか。それを落とし込んでいくと、具体化して目指していけると思う。事業がすでに決まっているようだが、表紙が変わっても中身が変わっていない、ということのないように、3つを実現できる試験的な事業をしていただければと思う。グランドデザインを反映した事業が新しくできると、結果を反映しやすくなるのではないか。質問として、社会教育・生涯学習推進事業目標を達成する肝煎りの事業が、青少年、成人、高齢者、一般の中にあるのかどうか、そこにねらいや目標とするものがあるのかどうか、なければ作るべきと思う。

事務局：平成27年度生涯学習推進課・公民館実施事業は、予算の作業中で、固まったものではない。内容を詰めた段階で、お示ししたい。学びの輪に、どういうふうに関連づけるかであるが、例えば、青少年教育事業の謙信 KIDS スクールプロジェクトの場合、体験をしたり、地域のことを知ったりする活動を行い、中学生になると、中学生まちづくりワークショップで地域の課題を地域の人とともに解決する活動を行い、大きくなった時には、成人向けの教室等に参加していただく。今、元気の出るふるさと講座という事業を行っており、大人として地域の課

題や解決策を考えている。その事業の目的には、リーダー養成という
ものも含まれている。今後、地域が求めているものは何か、ということ
について、我々が地域に入って実態を聞き、考えていかなければなら
ないが、地域が求めているのは、リーダーであったり、事務局的なこ
とをする人であったり、実際に動く人であったり、さまざまであるが、
そういう人達に行政講座として循環させていければと思っている。い
ろいろな講座をきっかけにつながりができることを期待しており、1
つの講座で全て回す、ということではない。

田中副委員長：中身はこれから工夫されるということなので、今後は、それがしっ
かり反映されているかどうか、評価方法に関する検証が必要になると
思う。

事務局：評価軸をどうするかについても検討させていただいているところであ
る。新しい評価方法については、今後の会議でお示ししたい。

田中副委員長：了解した。広報についてであるが、勧誘しながら何とか集客数を確
保している状況にあるので、今までとは違う方法で集客を図ることを
軸の一つに入れてもらえればと思う。

竹内委員：当初から、社会教育と生涯学習のすみ分けを市民の方にも分かりやす
くできればいいと思っていた。一番の目玉は、全市に取り組むテーマ
を各地域で共通に行うことだと思う。これが軌道に乗れば、新しい公
民館の位置付けができるのではないかとと思っている。

石井委員：今まで何年か積み上げてきたものが、はっきりと出たのではないかと
思う。上越市全体で同じ講座をしていくという方向は、これまでより
前進できてよい。13区のいいところを残して上越市が一つにまとま
るきっかけになるのではないかと思う。

樋口委員：社会教育委員の会報の中に、地域の課題と生活の課題を含めて行うも

のが公民館も含めた社会教育の在り方となっているが、今、個人が勉強することと地域をよくすること、という異なった要素を一つにして考えているので、分かりにくくなっていると思う。どういうふうな活動をすれば自分も周りもよい、というのがよく分かっていない気がするので、そこから考えていかなければいけないと思う。どうしても昔の公民館活動というのが頭にあるので、地域の課題と個人の課題を一つに考えることがしっくりこなかったり、分からなかったりする。どうしても地域のことを先に考えてしまう。前島記念館にいても、いろいろな考え方の市民と話をすることがあるが、はっきり物事を分かっている人は少ないと思う。分からない人には何を言っても分からない。私には、まだ分かりにくいところがある。

秋山委員長：今の樋口委員のような目線で言っただけだと、新鮮で違った切り口があるのかと思うので、意見交換に参加していない委員からは、是非、資料が分かりやすくなったかどうかのご意見をいただきたい。

秋山(正)委員：前回の社会教育委員に出席したが、前よりも分かりやすくなったと思う。その時のワークショップでも述べたが、上越市が消滅都市にならないようにするためにどうすればよいか、ということもしっかり考えなくてはいけない。若い人たちが自分の住んでいるところに愛着を持ち、いいな、と思うと、ここに暮らす意欲につながると思う。高校生の進路を見ると、外に出ることを考える志向が中・下越に比べて強い。拝見すると、青少年に対する取組が各段に多いので、若い人たちがこういう活動に参加して、いいなと思えるようにしていくことが大事だと思う。学校教育と重なる部分があるので、分捕り合戦にならないように考えていくことも必要だと思う。質問であるが、13区を認めたのがいいことなのか。13区を認めたことで高田や直江津が復活し、その前の村が復活するような細分化したところが見受けられる。

自分が住んでいる頸城区の話をする、地震や災害が起きた時に近くの南川小学校へ逃げるのが普通だと思っていたが、西福島1区の人たちは校区を超え、古城小学校へ逃げなくてはいけないことになっている。そこに住んでいる人たちの意識は、小学校区であったり中学校区であったり旧市町村の中で動いている。本当のオール上越のような視点で考えられるような活動をしていくということが必要ではないか。

秋山(美)委員：私事であるが、広報上越11月1日号に私たちが行っている講座を掲載していただいたら関心が高く、講座の回数を増やして行う予定にしている。そういうところに公民館が参画してもらえると有難い。他の講座のこともアンテナを張っていただきながら、どういうものが一番求められているのかを考えて実行していただきたい。健康に関して関心が高い、ということを一言付け加えさせていただきたい。

秋山委員長：平成27年度生涯学習推進課・公民館実施事業の表にある「地域（市民）活動への支援」の青少年・成人・高齢者の部分が空白になっている。ここにたくさんのメニューが入り、多少の予算的な協力関係ができるとよい、ということでしょうか。その他、せっかくなので、他に発言されていない委員からも意見をいただきたい。

上原委員：事業目標及び目標の下の3つの内容も大変よいと思う。これから事業を実施し、検証していく中で、循環の輪がどれほど大事であるかが分かってくるのではないかと思います。

小林委員：皆さんの集約したものが、このような形になってよかったと思う。このようなサイクルがしっかりでき、評価までスムーズにできるようになればよいと思う。あくまでもプランはプラン。やってこそ意味がある。

秋山委員長：概ね、委員の皆さんからは了承する意見をいただけたと思う。時間をかけての検討ありがとうございました。いろいろな意見を言葉で整理する

のは大変だったと思うが、このようにまとめてもらい、感謝する。田中副委員長が申しあげていたが、是非、これを細かな事業の中に落とし込み、そこにキラッとするような新しいものが入り、それが見えてくるといいのではないかと思う。この方法でやっていただくということで、よいか。

委員：了承。

秋山委員長：この方法で、お願いしたい。その他、上越市教育の日について事務局から説明願いたい。

— 資料に基づき、事務局説明 —

秋山委員長：この件については、説明いただいたということでご了解いただきたい。

一点だけ付け加えるが、策定過程及びセレモニーに関して、社会教育委員会が蚊帳の外だった印象がある。教育の日と謳っているのであれば、是非情報共有なりしていただければと思う。

事務局：ご指摘のあった部分については、お詫びして反省をさせていただきたい。

《閉会》

9 問合せ先

上越市教育委員会生涯学習推進課・公民館 TEL：025-545-9245 (内線 1230)

E-mail：syakai@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。